

陸連時報 第三

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

2013

7

月号
平成25年

会長就任にあたって



公益財団法人 日本陸上競技連盟

会長 横川 浩

このたび私は、我が国の陸上競技界のみならず、スポーツ界を牽引^{けんいん}されてこられた河野洋平前会長の後を引き継ぎ、公益財団法人日本陸上競技連盟会長に就任いたしました。

我が国の陸上競技界を統轄し、代表する組織として関係各位の皆様とご理解ご協力をいただきながら陸上競技のみならず、日本のスポーツ界の発展に少しでも資することができるよう努めて参りたいと考えております。

スポーツ並びに陸上競技を取り巻く環境は、社会経済環境ともきわめて密接に関連しており、厳しさを大きく含みながら変化をしております。もちろん、陸上競技界とてその例外ではなく、むしろこの大きな変化に機敏に対応し、乗り越え、スポーツ界を牽引する役割を果たしていかなければなりません。

オリンピックや世界陸上などの国際大会での選手の活躍は、日本に活力をもたらすとともに、多くの子どもたちをはじめ、国民が陸上競技、スポーツへの関心を持つきっかけにもなります。本連盟としてもこの国際競技力の向上をこれまで以上に目指し、若い世代を育て世界の舞台へと飛躍させたいと思います。

また、昨今子どもたちの体力低下など、スポーツ離れが盛んに言われておりますが、「はしる」「とぶ」「なげる」という、あらゆる世代のスポーツ実践の入り口であり、スポーツの基本となる陸上競技の果たす役割として、地域での普及、育成活動をこれまで以上に多角的に行うとともに、スポーツを行う「場」の提供、仕組み作りなどに取り組みみたいと考えております。加えて、指導者をしっかりと育成していくことが、多くの子どもたちに真のスポーツの楽しさ、スポーツを行うことでの人生の豊かさを感じていくきっかけを作るものであり、本連盟の重要な責務として指導者育成に取り組んでまいりたいと思います。

こうしたスポーツ界の多くの課題や大きな目標に向け、それらを成し遂げいく基盤となる組織の充実、地域や関連団体との連携をより進め、多くの関係者とともに歩み、取り組んでまいる所存ですので、皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。就任のご挨拶といたします。

会長退任にあたって



公益財団法人 日本陸上競技連盟

名誉会長

河野洋平

我が国のスポーツ界を牽引してこられた故青木平治会長からバトンを受け継ぎ、1999年より14年間、日本陸連の会長として走り続けて参りましたが、私もまた次の体制にそのバトンを渡す時が参りました。

会長に就任した際、強化、普及、国際化ということをまず申し上げました。シドニーからロンドンまで4回のオリンピックに携わり、陸上界待望の金メダル獲得に立ち会えたことは至極の喜びですが、国民の期待に十分応えることができたかといえば慚愧たる思いです。しかし近年、ジュニアの普及・強化策が実り、明るい兆しがいくつか見え始めました。この兆しが全体を照らす大きな光となるよう、若い力がベテランと共に世界で飛躍するための大胆な方針を今後も日本陸連が推し進めてゆくことを期待します。

普及については、これまでも常に努力し成果を上げてきましたが、未だやるべきことは山積しています。子どもたち、中高生、ジョガーを含めた陸上愛好者、多くの人々の関心を陸上競技に引きつけ、その関心にどのように応えていくのか、さらなる行動が求められています。また、指導者の育成が今日の大きな課題として注目されています。なによりも指導を受ける側の立場に立ち、指導者にとって、さらには競技者の第2の人生につながる実りある施策を日本陸連は進めていかななくてはなりません。国際陸上競技連盟に役員を派遣し、国際陸上界に於ける責務を果たしていくことは、日本陸連の存在を確固たるものとし、世界で活躍する選手の環境整備につながります。これら日本陸連の重要な使命を果たすため、今後も加盟団体と共に努力していかねばなりません。

多くの陸上ファン、関係者の皆様の期待に応えて、日本陸上競技連盟が今後益々発展されますことを祈念して退任の挨拶と致します。

理事会報告

第13回理事会

日時：2013年5月17日（金）

14時00分～15時32分

場所：小田急第一生命ビル11階会議室

【議題】

〈協議事項〉

1. 第2期事業報告・決算
2. 定款一部改定
3. スポーツ活動支援制度の改定
4. その他

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数29名、出席者数23名（1名遅刻にて出席のため計24名出席となった）で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

〈協議事項〉

1. 第2期事業・決算

尾縣専務理事より事業報告について、杉本理事・財務委員長より決算報告について、山田監事より監査報告についてそれぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。事業報告の要旨は以下の通り。なお、事業報告及び決算は評議員会の決議を経て最終的に承認される。（事業報告及び決算書は評議員会での承認後、本連盟公式ウェブサイトに掲載）

- ・ 第2期は2012年4月1日より2013年3月31日までのものである。
- ・ 第2期の事業のポイントは、競技力向上及び普及活動の二大事業を遂行するための組織基盤の

確立及び相互の好循環を図ることであった。

- ・ 諸事業のポイントは以下の通り。

①陸上競技の普及及び指導者の育成に関する事業

指導者育成事業として、新制度に基づき公認ジュニアコーチ養成講習会、公認コーチ養成講習会を4会場で実施。その他、小学生指導者中央研修会を2会場、U-15指導者講習会を4会場、コーチングクリニックを2会場でそれぞれ実施した。

普及事業として、競技者発掘育成クリニックを32会場、U-15トップトレーニングキャンプ、小学生優秀選手選抜研修会の他、キッズアスリート・プロジェクトを10会場で実施した。

②陸上競技の競技力の向上に関する事業並びに陸上競技の国際競技会等に対する代表参加者の選定及び派遣に関する事業

第2期においては、ロンドンオリンピックに向けた強化対策と中長期的な戦略に基づく次世代競技者の育成に重点を置いた。また、ロンドンオリンピックを含む8大会に代表選手を派遣した。

医科学サポートとしてはロンドンオリンピックに向けたサポート研究活動、ジュニア世代の育成を目的としたアンケート調査等を実施した。

ドーピング防止活動として、445件の競技会検査と43の競技会にNFR（ナショナルフェデレーションリプリゼンタティブ）を派遣した。

③国際競技会、日本選手権大会及びその他の競

技会の開催に関する事業

第96回日本陸上競技選手権大会（6月・大阪）をはじめとする主催35大会を開催した。

④会員登録

2012年度の登録会員数は34万4168人であり、前年度から約2万5000人増加した。高校の運動部全体として減少傾向にある中、高校生の登録者数が約5000人増えていることは特筆すべき点である。

⑤その他の事業

機関誌の発行として、強化、普及、科学、医事の各委員会の協力のもと、陸上競技指導教本アンダー16・19の初級編及び上級編を刊行した。

広報及び財政基盤の充実化とともに、引き続き加盟団体の法人化を進めている。

・上記の事業報告に加え、原田理事・強化委員長及び繁田理事・普及育成委員長より強化委員会、普及育成委員会の活動につきそれぞれ報告した。

2. 定款一部改定

尾縣専務理事より、定款第22条、29条、38条の改定につき資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。なお、定款の変更は評議員会の決議を経て最終的に承認される。（資料1参照）

3. スポーツ活動支援制度の改定

原田理事・強化委員長より、スポーツ活動支援制度の改定につき、強化競技者制度の変更に伴い支援対象競技者を変更する旨、また支援対象者の収入につき固定収入を認めていなかったが100万

円までは固定収入も含めて認める旨を資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。

4. その他

①小学生の競技会における長距離種目の距離

八木理事より、小学生の競技会において実施する長距離種目の距離につき質問が出され、尾縣専務理事から本連盟がガイドラインを再度作成し、周知徹底していく旨回答した。

②桐生祥秀選手の世界ジュニアタイ記録の公認（報告）

桐生選手の10秒01の世界ジュニアタイ記録公認に関し、吉儀理事・競技運営委員長から経過及び状況の報告とルールの説明を行った上で、本連盟としては記録の申請手続きは行い、国際陸上競技連盟（IAAF）の最終決定を待つ旨、報告があった。加えて、河野会長より、本連盟としては競技会における環境整備を徹底するよう言及があった。

③コンプライアンス委員会及び相談窓口（報告）

尾縣専務理事より、コンプライアンス委員会及び相談窓口につき報告があった。コンプライアンス委員会は新体制発足後に設置し、相談窓口はこれに先立ち5月20日より暴力及びセクシャルハラスメントに関する専用相談窓口を開設する旨報告した。（相談窓口は電話03-5321-6582 [平日13時～18時]、公式ウェブサイト上のフォームは、<http://www.jaaf.or.jp/ethic/compliance.html>参照）

④河野会長退任挨拶

理事会終了に際し、河野会長より退任の挨拶があった。

【収入の部】			
	第2期	第1期	前年差額
1. 基本財産運用収益	4,004,838	4,136,793	△ 131,955
2. 登録料受入収益	21,930,000	20,404,100	1,525,900
3. 加盟料受入収益	4,700,000	4,700,000	0
4. 受取寄付金	452,200,000	469,249,643	△ 17,049,643
5. 受取委託金・助成金	188,944,200	99,765,459	89,178,741
6. 事業収益	1,363,877,095	1,078,282,100	285,594,995
7. その他事業収益	66,277,114	46,817,440	19,459,674
8. 雑収益	9,064,179	7,933,881	1,130,298
経常収益計	2,110,997,426	1,731,289,416	379,708,010
【支出の部】			
	第2期	第1期	前年差額
9. 事業費	1,779,579,567	1,049,803,065	729,776,502
10. 管理費	95,412,374	67,776,044	27,636,330
経常費用計	1,874,991,941	1,117,579,109	757,412,832
当期経常増減額	236,005,485	613,710,307	△ 377,704,822
11. 経常外費用	22,526,214	27,839,285	△ 5,313,071
当期正味財産増減額	213,479,271	585,871,022	△ 372,391,751
一般正味財産期首残高	2,822,644,310	2,236,773,288	585,871,022
一般正味財産期末残高	3,036,123,581	2,822,644,310	213,479,271

※注 「前年度」については、2011年8月1日から2012年3月31日迄、8ヶ月間の実績となります。

資料1 定款一部改定について

現行規定	改定案
第6章 評議員会	
(開催) 第22条 評議員会は、定時評議員会として 毎年度6月 に開催するほか、必要がある場合に開催する。	(開催) 第22条 評議員会は、定時評議員会として 毎事業年度終了後3箇月以内 に開催するほか、必要がある場合に開催する。
第7章 役員	
(役員の選任) 第29条 2 会長、副会長、専務理事及び常務理事 は理事会の決議によって理事の中から選定する。	(役員の選任) 第29条 2 会長、副会長、専務理事及び常務理事、並びに代表理事及び業務執行理事 は理事会の決議によって理事の中から選定する。
第8章 理事会	
(構成) 第38条 理事会は、 毎年度6月 及び3月に開催するほか、必要がある場合に開催する。	(構成) 第38条 理事会は、 毎事業年度終了後3箇月以内 及び3月に開催するほか、必要がある場合に開催する。

第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)

マラソン・競歩日本代表選手メッセージ

8月10日から8月18日までロシア・モスクワで開催される第14回世界陸上競技選手権大会。先月号のマラソン・競歩代表選手発表に引き続き、各選手からのメッセージを掲載します。

- ①大会に向けての抱負 ②競技のココ・私のこんな姿に注目！ ③将来を夢見て練習に励む中高生に向けてのメッセージ
④ゲンを担いで大会前日の夕食に食べるもの ⑤座右の銘(信条) 好きな言葉

【マラソン】男子 5名



前田 和浩(まえだ・かずひろ)

九電工・福岡

1981.4.19 生(32歳) 167cm・56kg
白石中学校(佐賀)所属部:陸上部
指導者:門田芳彦→白石高校(佐賀)
所属部:陸上部 指導者:三原市郎
①入賞できるように頑張ります。

- ②レース中の駆け引き。中盤の粘り。
④パスタ。



堀端 宏行(ほりばた・ひろゆき)

旭化成・宮崎

1986.10.28 生(26歳) 189cm・69kg
日奈久中学校(熊本)所属部:サッカー部 指導者:児島頭伸→八代東高校(熊本)所属部:陸上部 指導者:片山勇

- ①8位入賞が目標だが、前回(2011年)は7位だったので、それを上回る順位を目標にしたい。
②マラソンはかなりの長丁場ではあるが、日本国内の選考会とは違い、レースの展開が読めないと思うので見応えはあると思う。持ち味はスタミナだと思うので、それを武器に目標を達成したい。
③アフリカ勢に記録で大きな差を付けられているが、自分の実力を出し切れれば入賞も充分可能だと思うので、終盤に粘りながら走っている姿をみてほしいと思う。
④特になし(炭水化物の多めの食事をしている程度)。
⑤挑戦



川内 優輝(かわうち・ゆうき)

埼玉県庁・埼玉

1987.3.5 生(26歳) 175cm・62kg
鷺宮中学校(埼玉)所属部:陸上部
指導者:大表良徳、田村嘉則→春日部東高校(埼玉)所属部:陸上競技部 指導者:菅原和浩、贅田尚哉→

学習院大学 所属部:陸上競技部 指導者:津田誠一、福永茂樹

- ①6位入賞を果たし、世界陸上で連続入賞を続けている「マラソン王国日本」の伝統を守り、次世代の「やる気」に

火をつけたいです。

- ②マラソンは「駆け引き」が重要な競技であり、だからこそ「経験」が活きてくる局面も多いと思います。給水所等で、どのような動きがあるか注目して見てください。
③「継続と反復」が私のトレーニングの基本です。故障をせずに「当たり前のことを当たり前にやること」が強くなるために一番大事なことです。
④カレー(欧風または市販)。
⑤現状打破/市民ランナーに引退はない



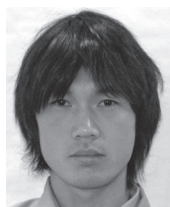
藤原 正和(ふじわら・まさかず)

Honda・埼玉

1981.3.6 生(32歳) 167cm・54kg
大河内中学校(兵庫)所属部:陸上部
指導者:段床繁雄→西脇工業高校(兵庫)所属部:陸上部 指導者:渡辺公二→中央大学 所属部:陸上競技部

指導者:木下澄雄

- ①目標は8位入賞。10年前立てなかったスタートラインに立ち、世界の強豪に負けない走りをしたい。一人でも多く、アフリカ勢に勝ちたい。
②42.195kmは観るのも長いですが、世界陸上ではスタートからすぐに駆け引きが始まります。それにどう対応するかを観て下さい。
③「我慢」。後半きつくなった所での我慢している姿に注目して下さい。それを観て、何か感じて頂ければと思います。
④特にありません。海外では対応できない場合もあるので。
⑤人間万事塞翁が馬。



中本 健太郎(なかもと・けんたろう)

安川電機・福岡

1982.12.7 生(30歳) 173cm・58kg
菊川中学校(山口)所属部:野球部→西市高校(山口)所属部:陸上部 指導者:富家章治→拓殖大学 指導者:米重修一

- ①皆様からの応援を力に変え、入賞を目標に頑張ります。
②極限まで体力を削って走ります。後半の粘りに注目してください。
③学生時代は全国大会の経験はありませんでしたが、夢を諦めずに競技を続けてきたことにより、世界の舞台まで

いくことができました。皆さんも夢を目標に頑張ってください。

④お米。

【マラソン】女子 3名



木崎 良子 (きざき・りょうこ)
ダイハツ・大阪
1985.6.21 生 (27歳) 157cm・43kg
江陽中学校 (京都) 所属部: バスケッ
トボール部 指導者: 野村力→宮津高
校 (京都) 所属部: 陸上部 指導者:
北野剛教→佛教大学 所属部: 陸上部
指導者: 原田明正、森川賢一

- ①笑顔でスタートラインに立ち、笑顔でゴールできるよう頑張ります。
- ②マラソン競技は、応援してくださる方、みている方に勇気や元気を与えることができる競技だと思います。
- ③ゴールするまで諦めない走りをし、一人でも多くの方に勇気や感動を与えることができる選手になれるよう頑張ります。
- ⑤感謝・ありがとう。



福士 加代子 (ふくし・かよこ)
ワコール・京都
1982.3.25 生 (31歳) 160cm・45kg
板柳中学校 (青森) 所属部: ソフトボ
ール部 五所川原工業高校 (青森) 所属
部: 陸上部 指導者: 安田信昭

- ①世界の一等賞を目指して頑張ります!
- ②マラソンの30kmから元気になっている私の背骨に注目!
- ③自分に素直になる。それが走りにも出るから。
- ④ダシが効いた具だくさんのお味噌汁。
- ⑤“願えば叶う” / ほどほどに。



野口 みずき (のぐち・みずき)
シスメックス・兵庫
1978.7.3 生 (34歳) 150cm・41kg
厚生中学校 (三重) 所属部: 陸上部
指導者: 中村宏→宇治山田商業高校
(三重) 所属部: 陸上部 指導者: 山
本顕

- ①10年振りの世界陸上、この10年頂点もみました、どん底もみました。そして再び世界の舞台に…。10年分の想いを走りに込めて積極的な走りをして表彰台に上がりたい。
- ②後半エンジンがかかる、積極的な走りを自分のスタイルとします。マラソンは一度走ったら、次こそ! とか、次も! と何度も走りたくなる。
- ③小さくてもできる! 諦めなければ叶う、世界でも戦える!! という所を表現したい。“継続は力なり”、コツコツ同じ積み重ねは簡単なようで難しい。一步一步大切にしてほしい。

④特に決まっていなくても、ご飯などの炭水化物をしっかり食べる。

⑤努力は裏切らない。 / Work Hard Play Hard 遊びも仕事も一生懸命。

【競歩】男子20km競歩 2名



鈴木 雄介 (すずき・ゆうすけ)
富士通・千葉
1988.1.2 生 (25歳) 169cm・57kg
辰口中学校 (石川) →小松高校 (石川)
→順天堂大学

- ①ずっと目標としていたメダル獲得が明確な形となって見えてきたので、絶対に実現させたいと思う。
- ②伸びやかで力強くきれいなフォーム。
- ③夢を叶えるためには、まず想像すること。その想像が明確になればなるほど夢に近づいていく。僕の夢が一步前進する瞬間を見てほしい。
- ④何も気にせずおいしいものを食べる。
- ⑤想像することができることはなんでも実現できる。



西塔 拓己 (さいとう・たくみ)
東洋大学・広島
1993.3.23 生 (20歳) 178cm・59kg
能美中学校 (広島) 所属部: 陸上競技
部 指導者: 宮本好章→県立広島商業
高校 所属部: 陸上競技部 指導者:
秋山定之

- ①自分のレースを見失うことなく、勝負をしていく。入賞、メダル獲得を目標にしていきたいと思う。
- ②競歩は歩型のルールがある種目で、最後まで何があるかわからない種目です。積極的にどんどん攻めていくつもりなので注目してください。
- ③競歩は競技人口が少ない種目です。今回の世界陸上で僕たちの歩き、レースを見て、少しでもやってみたいと思って頂ければ、うれしいです。
- ④甘いものを食べる。
- ⑤どうなったっていい、かっこ悪くたっていい、死にものぐるいで未来を変えてやる。(UVER world CORE PRIDE)

【競歩】男子50km競歩 3名

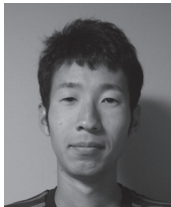


谷井 孝行 (たにい・たかゆき)
SGHグループさがわ・京都
1983.2.14 生 (30歳) 167cm・57kg
滑川中学校 (富山) 所属部: 野球部
指導者: 野口貴史→高岡向陵高校 (富
山) 所属部: 陸上競技部 指導者: 北
山豊→日本大学 所属部: 陸上競技部

- ①前回の世界陸上では9位、昨年のオリンピックでは途中棄権と悔しい思いをしました。今大会では入賞を目標にするのと共にタイムにもこだわっていきたいです。自己

ベストを最低目標の一つでも上の順位を目指します。

- ②50km競歩は約4時間という長丁場のレースになります。それだけに中盤から順位の変動が多く、また歩型による失格もあるだけに、最後まで勝負がわからない種目です。自分の持ち味は粘りにあるので、後半の頑張りに注目してもらいたいです。
- ③最初から50kmを歩くことができたわけではありません。50kmを全力で歩く姿を見て日々の練習の積み重ねがいかに大切かということを感じてもらえれば幸いです。
- ④食べたいものを食べます。
- ⑤諦めない



荒井 広宙 (あらい・ひろおき)

自衛隊体育学校・埼玉

1988.5.18 生 (25歳) 180cm・62kg
小布施中学校 (長野) 所属部: 陸上部
→長野実業高校 (長野) 所属部: 陸上部
指導者: 荻原信幸→福井工業大学

- ①テグ世界陸上に続き2回目の出場になりますが、前回の10位以上を目指してがんばります。
- ②競歩にはフォームによる失格があるので、選手の歩きの技術にも注目してもらいたいです。
- ③50kmという長い距離で、最後まであきらめず戦うところをみてもらいたいです。
- ⑤大器晩成



森岡 紘一郎 (もりおか・こういちろう)

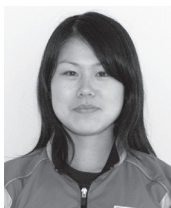
富士通・千葉

1985.4.2 生 (28歳) 184cm・66kg
西諫早中学校 (長崎) 所属部: 陸上部
指導者: 福田正博→諫早高校 (長崎)
所属部: 陸上部 指導者: 松元利弘→
順天堂大学 所属部: 陸上部 指導者:

今村文男

- ①前回大会のように自分自身の力を出し切れるようなレースをしたい。
- ②50km競歩という種目の過酷さと、世界のトップを争う選手達の歩きの美しさを知ってもらいたい。
- ③楽しいことばかりではないと思いますが、夢を追い続けることが出来れば必ずその夢に近づけると思っています。
- ⑤日々是好日

【競歩】女子20km競歩 2名



瀧瀬 真寿美 (ふちせ・ますみ)

大塚製薬・徳島

1986.9.2 生 (26歳) 161cm・50kg
朝日中学校 (兵庫) 所属部: 陸上部
指導者: 森下光浩→須磨学園高校 (兵庫)
所属部: 陸上部 指導者: 長谷川
重夫 龍谷大学 所属部: 陸上部 指

導者: 澤田一夫、西出勝

- ①自己ベストを更新して、しっかり勝負出来るレースをし

たいです。

- ②周回コースを何度も歩くので、レース展開もよくわかり、おもしろいと思います。
- ③最後まで粘り強く歩きます。
- ④うなぎ
- ⑤気持ち



大利 久美 (おおとし・くみ)

富士通・千葉

1985.7.29 生 (27歳) 161cm・46kg
西武学園文理中学校→西武学園文理高
校 所属部: 陸上部 指導者: 武井勉、
金井啓子→日本女子体育大学 所属
部: 陸上部 指導者: 鈴木茂雄

- ①応援して下さる方々を飽きさせないような粘りのあるレースをしたいです。また、華やかな舞台を楽しみたいです。
- ②大きくてしなやかなフォームが私の特徴です。レース当日に向け、磨きをかけていきたいです。
- ③競歩は日本ではまだマイナー種目なので、日本人でも戦える姿を見せることで、少しでも興味を持ってくれる人が増えると嬉しいです。
- ④白いご飯
- ⑤他人に勝つ前に己に克て

2013年度日本グランプリシリーズ各ブロック報告

強化委員会

〈短距離（男子）〉

織田記念は、桐生祥秀選手（洛南高校）のジュニア世界タイ記録を筆頭に、自己記録を出す選手が出るなど短距離の醍醐味を感じるレースが続いた。決勝は、9秒台の期待から国内ではあまり感じることがない緊張感がスタンドまで伝わるほど、素晴らしい雰囲気包まれた。そして、レースは、9秒台こそ出なかったものの、追い風参考ながら日本人選手同士が10秒0台で争うとても素晴らしいものであった。また、静岡国際においても、200mで飯塚翔太選手（中央大学）がモスクワ世界陸上派遣標準記録突破、橋元晃志選手（早稲田大学）がモスクワ世界陸上参加標準記録Aを突破するなど、恵まれた条件の中、良い結果を出す選手が多かった。ただ、組によって、風が異なる心配があり、予選・決勝の2レースなどの複数レースなどの検討も必要であるように感じた。また、400mも日本の400mを支えてきた金丸祐三選手（大塚製薬）が思った力を出せず終わったことは残念であったが、中野弘幸選手（愛知陸協）をはじめ自己新記録で45秒台が複数出たことは、モスクワ世界陸上参加標準記録Bには届かなかったものの、4×400mリレーでの可能性を感じる内容であった。

以上のように、とても恵まれた環境、関係者の努力のおかげで、好記録が続いた。私ども強化として、ただ運営を任せ切るのではなく、科学的データをリアルタイムで解説・公表するなどして、より良い大会作りに協力していきたいと考える。

〈短距離（女子）〉

今年度の日本グランプリシリーズはリレー種目の実施がなく、各選手個人種目の標準記録突破を目指す大会となった。

織田記念の100m、静岡国際の200mには4×100mリレーの中心となるメンバーが参戦した。広島では福島千里選手（北海道ハイテクAC）が11秒36(+2.3)をマークしたものの、残念ながら追い風参考記録となりモスクワ世界陸上参加標準記録突破はならなかった。また、1週間後のゴールデングランプリ東京では向かい風が強くと標準記録突破は阻まれてしまったが（11秒56（-2.4））、レース前半は外国勢と互角の戦いを見せた。静岡では福島選手が23秒32

(+1.0)、渡辺真弓選手（東邦銀行）が23秒35(+0.4)をマークし、参加標準記録Bにあと0秒02、0秒05と迫った。個人種目で複数名が標準記録を突破することはリレーを戦っていく上で必須条件である。冬から順調にトレーニングが出来ていることから渡辺選手の標準記録突破にも期待していきたい。市川華菜選手（ミズノ）は、400m参戦も視野に入れてのシーズンインであったことから仕上がりが遅れ気味で本来の力を発揮することが出来なかったが、400mでの可能性を視野に入れながらトレーニングを進めることは重要なことであるので、今後期待したい。また、土井杏南選手（埼玉栄高校）および高橋萌木子選手（富士通）ともにグランプリシリーズは欠場となったが、ロンドンオリンピックの悔しさを晴らすためにも、ショートスプリント陣は世界で戦うことを常に見据え、複数名の標準記録突破者が出るような高いレベルで競い合っていて欲しいと願っている。同様に、ロングスプリントも高いレベルで競い合わなければ世界への挑戦権を得ることも出来ない。53秒台数名で優勝を争うような、ロングスプリント陣の奮起が待たれる。

オリンピックの翌年ということもあり、新たな力、若手の台頭を期待していたが織田記念の100m決勝進出ラインは11秒94（昨年は11秒62）と低調であった感否めない。女子短距離の若手強化は今後重要な課題であり、積極的に策を講じる必要があると感じる。

〈中・長距離〉

今年度の日本グランプリシリーズでは、中・長距離種目の実施時間を、日没後の涼しい時間で行えるように配慮いただいたこともあり、記録の狙いやすい環境にあった。兵庫リレーカーニバルでは、気温が下がり過ぎてしまい、このことが裏目に出た感もあったが、このようなことが起こる確率は稀であり、来年度以降も今年度と同様に涼しい時間帯での競技実施を希望したい。兵庫の男子10000mでは、出場選手全体が消極的なレースに終始し、日本選手権の参加標準記録も破れない結果で終わった。また、織田記念の女子5000mでは、高校生がレース主導権をにぎり、日本選手1位の成績だったことなど、社会

人トップレベルの選手が出場しなかった事を原因とせず、社会人指導者が女子中長距離のレベルが落ちて来ていると言う危機感を持ち、駅伝重視の強化から、トラックシーズン重視の強化に変え、中長距離種目でのレベルアップを図って貰いたい。

一方で、日本トップクラスの選手に欠場者が多いのも事実である。このことの原因について検討する必要があるが、米国等で行われている他のレースに出場していることも要因の1つと考えられる。これらの大会と日本のグランプリシリーズとの差を検討し、来年度以降は、より多くのトップ選手が出場する大会となるよう、主催陸協との協力が必要である。

〈ハードル〉

今年度の日本グランプリシリーズでは、男子110mHおよび女子100mHが織田記念にて、男女の400mHが静岡国際にて開催された。概ね天候にも恵まれ、また風にも恵まれたものと考えているが、織田記念の女子100mHでは決勝が追い風参考になるなど、モスクワ世界陸上参加標準記録の突破を狙っていた選手にとっては不運であったといえる。また、ロンドンオリンピックの出場者に元気がなく、岸本鷹幸選手（富士通）も5位で49秒73と平凡なタイムであった。しかし、社会人一年目のシーズンであって環境の変化も大きいことを考えれば、日本選手権に期待したい。一方、女子ではベテランの久保倉里美選手（新潟アルビレックスRC）がタイムこそ平凡であるものの、優勝を飾った。ベテランの活躍には評価をすべきものの、強化としては若手の台頭にも期待したい。日本選手権ではベテランと若手が切磋琢磨するレースを期待したい。

また、グランプリシリーズが重点国際大会の選考対象競技会に設定されていることを考えれば、種目によって、予選と決勝を設定し、2レースを行えるようにするなどの調整も必要となる。

〈跳躍〉

織田記念は、例年は好条件での試合であったが、本年は変則的な風の影響も受け、低調に終わった。特に棒高跳では、山本聖途選手（中京大学）・澤野大地選手（富士通）の記録なしや我孫子智美選手（滋賀レイクスターズ）が4 m00と低調であった。また、走幅跳は菅井洋平選手（ミズノ）の欠場もあり、ベテラン荒川大輔選手（NOBY T & F CLUB）が、上

手な試合運びで優勝したものの、優勝記録が7 m70と低調であった。さらに、三段跳も、16mの跳躍が2名と低調であった。全体を通じて感じたことは、多くの選手たちのコンディションが悪い印象を持った。試合中に脚の調子を気にしている選手や実際に怪我をして、競技を中断してしまった選手が見られた。このあたりは、各選手たちが、この試合での達成度を評価し、この冬期トレーニングの目標との検証に努めてもらいたい。

今年の兵庫リレーカーニバルでは、非常に強い風の影響もあり、選手は助走をコントロールするのに大変苦労していたようだった。記録面では、榊見咲智子選手（九電工）にモスクワ世界陸上の参加標準記録の突破の期待がかかったが、思うように記録が伸びず6 m37と榊見選手にとっては低調な記録に終わった。一方で、平加有梨奈選手（北翔大学）が自己記録を大きく更新する6 m37の跳躍し、元気なところをみせた。また、ベテランの井村久美子選手（イムラアスリートアカデミー）も6 m37を跳躍し、3人が同一記録で並んでセカンド記録で順位がつくという珍しい結果であった。

今年の選抜陸上和歌山は、競技場を改修してから初めての日本グランプリシリーズとなった。天候は晴れて良かったが、男子走高跳では、2 m15にバーが上がったところから突然強い向かい風が変わり、選手は助走のスピードをコントロールするのに苦労していたようだった。記録面ではモスクワ世界陸上の参加標準記録突破を期待していたが、2 m20を越えたのが高張広海選手（日立ICT）・戸邊直人選手（筑波大学）の両選手だけで、3位以下は2 m10と低調な結果に終わってしまった。バー種目はどんな条件でも安定した結果を残すことが好記録達成の鍵である。今大会の結果を反省し、どんな条件でももう1ラウンド上の高さを跳べるように技術と体力を高めてもらいたい。

静岡国際では、好条件の中、競技が行われた。記録面では、女子走高跳ですでにモスクワ世界陸上の参加標準記録Bを突破している福本幸選手（甲南学園AC）に記録更新の期待がかかったが1 m82と平凡な記録で終わった。これ以外では、ここ2年間、怪我で記録を伸ばせなかった三村有希選手（チームミズノアスレティック）が1 m78をクリアして復調の兆しを見せた。女子三段跳については、ベテランの吉田文代選手（郡山女子大附高AC）がただ一人

13mを越える跳躍をし、元気なところを見せた。しかし、世界に行くには14m、アジアで勝負するにも13m後半の記録が求められているのにそのレベルに達していない現状がある。タレント発掘だけでなく他種目からのコンバートなど、抜本的な競技力向上の施策を行う必要性を感じた。

今年度の日本グランプリシリーズでは、風の状況が非常に悪かった印象を受けた。これは、大きなスタジアムが増え、それに伴い全国規模の大会もこのような大きなスタジアムで行われることが多くなったことを考えれば、仕方のないことともいえる。しかし、これに加えて、競技運営がどうしてもトラック優先になってしまい、トラックのスタート時のかなり前から、フィールド(砂場系)の競技を中断する場合もある。これでは、貴重な追い風を記録につなげることができない。一方で、トラックのスタートと自分の試技とが重なることを嫌う選手も多いことから、ベストな策はないにしても、ベターな策を大会主催者と共に検討する。

〈投擲〉

今年度の日本グランプリシリーズは、男子円盤投で堤雄司選手(国士舘大学)が日本学生新記録を樹立したことをはじめ、男子やり投では村上幸史選手(スズキ浜松AC)が日本歴代2位、女子やり投では海老原有希選手(スズキ浜松AC)が日本新を樹立するなど、非常にレベルの高い大会が続いた。なお、これらの記録は国際的にも評価される非常に高い記録である。これらの記録達成は、選手自身の日々の努力のたまものであることは当然であるが、競技運営にあたった各陸協のご理解とご協力があって初めて達成できるものであって、このことを忘れるべきではない。この場をお借りして、強化委員を代表してお礼申し上げます。

〈混成〉

これまで4月第3週目(兵庫リレーカーニバルと重なる週)に開催されることが多かった選抜陸上和歌山であるが、今年度は1週間遅く開催された(4月27日~28日)。これによって例年と比較すると天候が安定し、2日間とも好天気のもとで開催された。男子は16名のエントリーで事前棄権者が2名、また試合中の怪我により3名が途中棄権し、11名が競技を終了した。

昨年ロンドンオリンピック十種競技に出場した右代啓祐選手(スズキ浜松AC)は6月1~2日の日本選手権混成に照準を合わせており、まだ仕上がりが途中であった。そのため初日はスプリント系種目や跳躍種目で動きが安定しない場面が見られたが、2日目は得意の円盤投で49m03の自己ベスト記録を出すなど自己のペースに戻し、7824点で優勝した。この仕上がりが状況でも1日目の取りこぼしを修正できたことから実力の底上げがなされていると感じた。

1月の室内シーズンで室内七種競技日本記録を樹立した中村明彦選手(スズキ浜松AC)は今シーズン右代選手のライバルとして注目されているが、1日目終了後4100点をオーバーするなど順調な仕上がりが具合を見せた。2日目苦手種目の円盤投で失速したものの、シーズン初戦から自己ベストにわずかに及ばない7679点のセカンドベストで2位であった。

男子は好コンディションのもと競技を終了した11名中10名が7000点を越すハイレベルであったが、特に学生の活躍が目立った(川崎和也選手(順天堂大学)、谷浩二郎選手(筑波大学)、清水剛士選手(近大高専))。

女子では14名がエントリーし、1名が事前に出場を辞退した。昨年の日本ランキング上位の桐山智衣選手(中京大学)、竹原史恵選手(長谷川体育施設)、中田有紀選手(日本保育サービス)はまずまずの仕上がりが具合であった。

試合は全ての種目で安定した記録をマークした桐山選手が5357点で優勝した。追い風ながら200mの24秒90など走種目での進歩は評価できる。その桐山選手と最終種目の800mまで優勝争いを演じた今年社会人3年目の富山朝代選手(東大阪市陸協)は6年ぶりに自己ベストを更新する5315点で2位に入った。

女子も6位までが5000点以上というハイレベルであったが、途中棄権者が一人もいなく出場者13名全員が競技を終了したことは評価したい。

国際陸連 (IAAF) カウンシル会議報告

国際委員長 田中 克之 (IAAF カウンシル)

本年8月に世界陸上競技選手権大会が開催されるモスクワにおいて4月5～7日の3日間、IAAFカウンシル会議が開催された。

今回の会議で最も時間を割いたのは2016年までのIAAFの方向を定める「戦略プラン」であった。また8月のモスクワ総会で初めて実施されるアスレチックス・フォーラムも注目をひいた。

今回の会議の概要は以下の通りである。

記

1. 開会

ロシア側よりレオンチエヴィッチ連邦スポーツ大臣、ヴォロロフ・モスクワ市スポーツ局長が出席し参加者に対する歓迎の辞及び今夏のモスクワ世界陸上開催に対する意気込みを語った。

2. 2013～16年IAAF戦略プラン

前回のカウンシル会議でこれまでの世界プラン (World Plan 2003～12年) に代わる戦略プラン (Strategic Plan 2013～16年) の基本的価値、使命、目標を承認し、実務者委員会に対し具体的活動等に付き更なる検討を加えその結果を報告するよう指示した経緯がある。これを受け同委員会はより詳細な36項目に渡る具体的活動目標と、その達成のための工程表を今回のカウンシル会議に提示したところ審議の結果カウンシルはこれを承認した。一例を挙げれば前回のカウンシル会議で承認された12の目標の一つは「管理 (マネジメント) 効率の改善」というものであったが、今回この目標に関連し、①戦略プランの具体化 ②地域陸連、各国陸連とIAAFマネジメントの整合的効率改善 ③IAAF委員会、コミッションの合理化 ④ワールド・アスレチックス・フォーラムの実施 という4つのより詳細な具体的活動目標が提示される一方、各々の具体的活動目標達成のための工程表が示された。

3. ワールド・アスレチックス・フォーラム

前々回会議で、総会を活性化するためのモスクワ総会ではアスレチックス・フォーラムを開催することが決定されたが、今回会議にはフォーラムの実行委員会から具体案が提示された。その内容は以下の通りであるがカウンシルはこれを了承した。

- ①総会2日目にフォーラムを開催する。
- ②午前中は全体会議とし、基調講演を行ってもらった後、
 - (a) 技術的にどのように陸上競技を近代化するか (WAS競技の構成、オリンピック及び世界陸上の参加資格、主要競技大会のタイムテーブル刷新、ワールド・リレー選手権の実施態様)
 - (b) どのように提携関係を築くか (オリンピック・ソリダリティ、市民参加型道路競技、政府機関及び非政府機関 (NGO) との連携) について討議
- ③午後は、つぎの3分科会に分かれ討議、その後全体会議
 - (a) IAAFのガバナンス
 - (b) 倫理的問題と対処方法
 - (c) 陸上競技の普及・促進

4. IAAF委員会の廃止とコミッションへの統合

①IAAFには理事会を支える機関として委員会 (committee) とコミッション (commission) がある。前者は技術委員会、女性委員会、競歩委員会、クロスカントリー委員会等であり、そのメンバーはIAAF総会の選挙で選出される。後者は競技コミッション、選手コミッション、医事・ドーピング防止コミッション、道路競走のコミッション等でありそのメンバーはカウンシルが任命する。

②これまで「両者間、あるいはコミッション間の守備範囲が重複する」「委員会の方は必ずしも適任者が選ばれるとは限らない」という批判があり、合理化すべきだという議論が存在した。

③今回の会議ではこの合理化が議論され「委員会とコミッションを統廃合し、全てをコミッションにする。そのメンバーはカウンシルが任命する。いかなるコミッションを立ち上げるかについては更にカウンシルにおいて議論する」という趣旨の提案を本年8月のIAAFモスクワ総会に提案することになった。

5. 倫理委員会の設置

①IAAFには既に倫理規定はあるがこれまで適用されたことがない、罰則規定がない、倫理委員会 (コミッション) のメンバーが選ばれていないという問題があった。

②2012年年初以来IAAF法務コミッションで新しい倫理規定内容が検討されてきたが、今回のカウンシル会議にその検討結果が提案され承認された結果、8月のIAAFモスクワ総会に諮られることになった。

6. IAAF委員会、コミッション報告

今回のカウンシル会議は8月のIAAFモスクワ総会までの最後の

会議であったため各委員会やコミッションから数多くの提案が寄せられた。カウンシルが承認した提案の中で重要と思われるのは次の点である。

- (1) 世界選手権及びオリンピックのための参加資格取得システム
競技コミッションから「世界選手権及びオリンピックの参加資格取得システム」について提案がありカウンシルはこれを承認した。同システムは次の考え方の下に作成されたものである。
 - ①参加選手を約2000名程度に抑える。
 - ②全体の参加選手のうち約75%が参加標準記録の突破により、残りの25%が選手のランキングに基づく招待により参加するような水準に参加標準記録を設定する。
 - ③個人種目の参加資格
次の3方法のいずれかを満たすことで競技参加が可能となる。
 - A: 次の資格を得ることにより自動的に参加可能となる者
 - 前回優勝 (同一国からの4番目の代表になれる)
 - ダイヤモンドリーグ/ハンマー投チャレンジ優勝 (同上)
 - 地域選手権大会優勝者 (但し、マラソンを除く)
 - 世界クロカン上位15位 (10000mに参加可能)
 - 競歩チャレンジ上位3位 (20km競歩に参加可能)
 - 混成競技チャレンジ上位3位
 - 開催国選手 (1種目1名)
 - 標準記録未達成選手 (1カ国1名)
 - B: 正式に参加標準記録を突破したことで参加可能になる者
 - C: 最終エントリー期日ランキングに基づきIAAFから参加招待 (この招待は、最終エントリー時に本人が属する加盟団体が招待候補者として指名した者のみ対象となる)
 - ④リレー種目の参加資格
世界選手権及びオリンピックには、開催国枠の1チームを含め最大16チームが参加できる。うち8チームは世界リレーの上位8チーム。残り8チーム (もし開催国チームが上位16カ国に入っていない場合、残り7チームとなる) は参加資格有効期間中に出したベスト2記録の平均値によりランク付けされる。

7. IAAF競技大会と市民参加型道路競走との併催

IAAFは陸上競技の普及及び観点からIAAF競技大会と市民参加道路競走との併催を推奨してきている。2014年の世界ハーフマラソン (コペンハーゲン) は既に市民マラソンと併催すべく準備を進めている。今回の会議では2015年の北京世界陸上での併催をどうするかが話題となった。北京側はいかなる形で実施可能との考えのようであるが、開催時の温度、湿度を考えた場合には、10kmが精一杯であろうとの結論となった。

8. IAAF技術代表セミナーの開催

IAAFは、国際技術委員 (ITO)、国際スターター、国際写真判定員等技術要員の質的向上を目指し試験による評価、セミナーの開催など色々努力を重ねてきている。技術要員の中で最も重要性が高いのがIAAF大会に派遣される技術代表であるが、将来に渡りきちんとした人物を確保したいとの考えから、IAAF初の試みとして本年10月末に技術代表セミナーが開催される。このセミナーは欧州地域陸連とIAAFの共催で実施されるが、将来の主要IAAF競技大会の技術代表になりうる能力を有する者を集めて教育を施しその識見を評価するのが目的である。今回の会議でこのセミナーに招聘される候補者26名が発表されたが、カウンシルメンバー7名、その他19名である。ほとんどが欧州人であるがアジアから日本の関幸生氏と中国のShen Chunde氏が含まれている。日本にとっては大きな朗報である。

9. 競技規則の改正

8月のモスクワ総会の中心議題は「競技規則改正」である。多くの改正提案が出されたがその多くは殆ど議論なく承認された。今回のカウンシル会議で賛否が分かれた競技規則改正案は次の通りであり、IAAFモスクワ総会で各々からの投票により可否が決定される。

- ①女子道路競技の世界記録
現規則は女性だけのレースで樹立された記録を「世界記録」とし、男女混合で出された記録は「世界最高記録 (World Best Performance)」としている。「女性だけのレースで樹立された世界記録」と「混合レースで樹立された世界記録」の二本立ての世界記録を認める提案にカウンシルは同意しが、反対意見があることを鑑み、総会の投票に諮ることとなった。
- ②男子ユースにおける混成競技種目
現行規則は男子ユースの混成競技は「八種競技」としているが、カウンシルとしてはこれを、シニア男子同様に「十種競技」とする提案に同意した。

国際陸連 (IAAF) 道路競走コミッション会議報告

国際委員長 田中 克之 (IAAF 道路競走コミッション委員)

IAAF ゴールド・ラベル・レースであるブラハマソン開催に併せて、2013年5月11日(土)に、IAAF 道路競走コミッション (Road Running Commission : RRC) がブラハで開催された。概要を次の通り報告する。

記

I. 出席者

委員長 David Bedford (英、ロンドンマラソン)
委員 Paco Borao (スペイン、AIMS会長)・Carlos Cardoso (ポルトガル)・田中克之・James Evans (南ア)・Mary Wittenberg (米、NYマラソン)・Pierre Weiss (仏、前IAAF事務総長)・Hugh Jones (英、AIMS専務理事)
オブザーバー Dirk Strumane (ベルギー、IAU会長)
IAAFスタッフ Sean Wallace (道路競走担当シニアマネージャー)・Paul Hardy (競技部長)

II. テーマ及び討議概要

1. 最近のIAAF 動向

ドーハ滞在中のガブリエルIAAF事務総長がスカイプにより参加し、最近のIAAFの動向につき次の通り説明。

- (1) 2013~16年を対象としたIAAF戦略プランが先般のカウンシル会議で承認された。同戦略はIAAFが対象期間中に具体的にどのようなことを、どのような工程で実施するかを策定したものであり、モスクワでの次回総会の承認を得て稼働することになる。なお、同戦略に従えば、現在IAAFにはカウンシルの補助機関としてCommitteeとCommissionがあるが、これをCommissionに一本化することになる。
- (2) IAAFには倫理規定があるがこれまで適用されたことがない、罰則規定がない、倫理委員会の委員が選出されていないという問題があった。今回この点を改め新しい倫理コードを定め、独立性のある倫理委員会のメンバーを選びきちんと運用することとなり、次回総会にこの新しい倫理コードを諮ることになった。
- (3) IAAFはIAAF主催大会と市民参加型道路競走との同時開催(併催)を推奨してきているが、2014年のコペンハーゲンでの世界ハーフマラソン選手権がそのラインで準備を進めている。北京の世界陸上時は酷暑の中で行われるので、マラソン等の長距離のものではなく10kmの市民参加型道路競走とすることで検討を進めている。

2. 2014年と2016年のIAAF世界ハーフマラソン選手権

委員長及びIAAFスタッフから次の説明があった。

- (1) 先般、2014年開催地(コペンハーゲン)の現地調査を行ったが、実に美しい都会でコースもきちんとしている。市民マラソンとの併催になるが、約2万5千人(そのうち外国人参加者5千人)が参加する。現地の組織委員会も情熱をもってきちんと取り組んでおり、世界ハーフマラソン選手権は成功裡に実施されるものと確信している。
- (2) コペンハーゲンは3回続けて世界ハーフマラソン選手権を開催したいとしており、既に2016年の開催地候補として手を挙げている。世界ハーフマラソン選手権を成功させるためにも連続同一地開催は結構なことである。

3. 2014年以降の世界ハーフマラソン選手権大会

前述の説明もあり、出席者一同は、今後の世界ハーフマラソン選手権の成功、並びに道路競走普及の観点からも①市民参加型道路競走との併催、②同一地での連続複数回開催を今後とも推奨することで意見の一致をみた。

4. コース計測活動及び自転車計測員責任者会議

2013年4月のロンドンマラソン開催時に開催されたIAAF/AIMS自転車計測員責任者会議について次のような報告が行われた。

- (1) AIMSは2年毎(世界ハーフマラソン選手権が開催されない年)に開催される自転車計測員責任者会議(Measurement Administrator's Meeting)の経費負担を行う。
- (2) IAAF/AIMS自転車計測員セミナーの講師資格保持者には参加者に参加証を付与する権限を与える一方、参加者のその後の計測活動を継続的にチェックし、地域の自転車計測員責任者に報告する責任をもたせることにした。
- (3) 自転車計測員責任者は、講師資格保持者からの推薦書及びしかるべき補助書類の提出によりC級認定書を付与することが出来ることとする。
- (4) コースをA/B級とC級自転車計測員2人ペアで計測中に、A/B級計測員にアクシデント(自転車のパンクなど)が起こり計測継続が出来なくなるようなイレギュラーな事例に際しては、C級

自転車計測員が計測報告書を作成したうえで、件のA/B級自転車計測員による承認を条件に、地域の自転車計測員責任者はコースを認証することが出来ることとした。

- (5) 計測員の昇格又は降格の提案は遅くとも10月15日までに行わなければならないことにした。
- (6) コースの再計測に関し、所在地が極めて遠方で現地へ赴くことが通常的手段ではできないような場合(例えばフォークランド島で開催されるStanleyマラソン)であって、最初に計測を担当した自転車計測員から当該コースにはその後、何らの変更も加えられていないとの申告がある場合には、自転車計測員責任者は、全コースの再計測が行われない場合でも、認証することが出来るようにした。

5. 規則改正提案

モスクワで開催される次回IAAF総会に諮られる規則改正案のうち道路競走コミッション(RRC)に係る改正案に関する他のコミッションないし委員会あるいはカウンシルの審議結果に付き説明が行われた。多くの改正案はRRCの考え方に沿うものであったが次の2点は問題とされ討議の結果、RRCとしては次の立場を取ることにした。

(1) 道路競技におけるマスターズの年齢

RRCでは従来から「道路競走におけるマスターズ年齢は40歳にすべきである」としていずれの競技においても35歳をマスターズ年齢とする」現行規則の改正を提案してきたが、マスターズ委員会、技術委員会、カウンシルはいずれもこの提案を受け入れなかった。しかし、RRCは今後とも従来の立場を堅持することとした。

(2) ペースメーカーの定義及び役割など

RRCはペースメーカーの定義や役割等(例えばペースメーカーは3人までとし、競技前の監督会議(Technical Meeting)で誰がペースメーカーであるかを明らかにすること等)を規則中に明示すべきであるとの提案を行ってきたが、技術委員会やカウンシルでは「規則改正ではなく、道路競走ラベリング規定の補足、修正で対処すべし」ということになった。これについては若干の討議の結果これを受け入れることとした。

6. IAAFラベル道路競走

(1) ラベリング規定の考察

- ① アフリカのマラソンをはじめ道路競走大会は、ひとつとしてIAAFのラベルを付与されていない。「これは道路競走普及の観点から問題ではないか」「ブロンズラベルの付与条件をもう少し緩めるべきではないか」ということが話題になったが、次回以降の会議で検討することになった。
- ② 規定については、これまでのRRC会議で指摘されてきたドリンクステーションの設置の仕方等について簡単な修正を加えることにした。なお、これらとは異なる修正点であったが、競技主催者の負担として、これまでは「IAAFに指名されたオブザーバー1名分の最大3日間の滞在費、エコノミークラス旅費を支弁する」となっていたところを「observer(s)の滞在費、フル・エコノミークラスをベースにした旅費を支弁する」と修正する事務局案に関し「オブザーバー1名であることをはっきりさせる」「フル・エコノミー・クラスをベースとしたという表現は曖昧なので、旅費についてはIAAFがそのスタッフに適用しているルールを採用すれば良いのではないか」ということになり、事務局側に再検討させることになった。

(2) 2014年の競技カレンダー

明年の競技カレンダーではパリマラソンとウィーンシティマラソン(いずれもゴールドラベル)が同日開催となる等の問題点が指摘された。

7. AIMS及びIAU動向

- (1) Borao委員(AIMS=国際マラソン・ディスタンス・レース協会会長)より「AIMSの会員レース数は350近くに増えた。2012年はAIMSの創立30周年に当たり、11月にアテネで30周年を祝った。本部もアテネに開設した」等の説明があった。
- (2) Strumane オブザーバー (IAU=国際ウルトラマラソン連合会長)から「IAUの現メンバーは57団体。2009年に開始したモナコ公国への団体登記手続きは昨年完了した。予算的にはIAAFからの補助、年間7500万ドルに大きく依存している。今年、予定されていた韓国での100km世界選手権が韓国側から資金不足を理由にキャンセルされたため大変困っている。代替地の目処が立っていない」等の説明があった。
※その後、南アフリカ開催で調整中。

大会観戦ガイド

第14回世界陸上競技選手権大会 (2013 / モスクワ)

会期：8月10日(土)～18日(日)
会場：Luzhniki Olympic Sports Complex

今号が発売される時には代表選手が決定している第14回世界陸上競技選手権大会。

ロシア・モスクワの地で開催される今大会での選手の熱演に、多くのご声援をお願い致します！

第14回世界陸上競技選手権大会(2013 / モスクワ) タイムテーブル 時間は現地時間(※モスクワの時差は-6時間)

時間	種目	性別	ラウンド
8月10日(土) 大会1日目			
9:30	円盤投	女	予選A
9:35	10種競技 100m	男	
10:10	100m	男	予備予選
10:15	棒高跳	男	予選A、B
10:35	10種競技 走幅跳	男	A、B
10:45	100m	女	予備予選
10:55	円盤投	女	予選B
11:20	800m	男	予選
12:20	10種競技 砲丸投	男	A、B
14:00	マラソン	女	決勝
15:30	10種競技 走高跳	男	A、B
17:05	ハンマー投	男	予選A
17:10	3000mSC	女	予選
18:05	400m	女	予選
18:35	ハンマー投	男	予選B
18:55	10000m	男	決勝
19:20	走幅跳	女	予選A、B
19:26	マラソン	女	表彰式
19:40	10種競技 400m	男	
20:15	100m	男	予選
20:57	10000m	男	表彰式
21:05	開会式		
8月11日(日) 大会2日目			
9:05	10種競技 110mH	男	
9:40	110mH	男	予選
10:00	10種競技 円盤投	男	A
10:30	1500m	女	予選
10:45	砲丸投	女	予選A、B
11:05	400m	男	予選
11:20	10種競技 円盤投	男	B
11:55	100m	女	予選
13:05	10種競技 棒高跳	男	A、B
17:00	20km競歩	男	決勝
17:15	10種競技 やり投	男	A
18:30	10種競技 やり投	男	B
19:00	走幅跳	女	決勝
19:05	100m	男	準決勝
19:10	棒高跳	女	予選A、B
19:35	800m	男	準決勝
19:55	20km競歩	男	表彰式
20:05	400m	女	準決勝
20:15	円盤投	女	決勝
20:35	10種競技 1500m	男	決勝
21:05	10000m	女	決勝
21:40	走幅跳	女	表彰式
21:50	100m	男	決勝
21:53	10種競技	男	表彰式
8月12日(月) 大会3日目			
9:30	7種競技 100mH	女	
9:40	円盤投	男	予選A
10:10	3000mSC	男	予選
10:35	7種競技 走高跳	女	A、B
11:05	円盤投	男	予選B
11:05	400mH	男	予選
11:50	400mH	女	予選
18:45	7種競技 砲丸投	女	A、B
19:00	棒高跳	男	決勝
19:05	110mH	男	準決勝
19:25	円盤投	女	表彰式
19:35	100m	女	準決勝

時間	種目	性別	ラウンド
19:55	10000m	女	表彰式
20:05	400m	男	準決勝
20:25	砲丸投	女	決勝
20:30	ハンマー投	男	決勝
20:35	7種競技 200m	女	
21:05	100m	男	表彰式
21:15	400m	女	決勝
21:30	110mH	男	決勝
21:35	砲丸投	女	表彰式
21:50	100m	女	決勝
21:54	400m	女	表彰式
8月13日(火) 大会4日目			
9:30	7種競技 走幅跳	女	A、B
9:35	20km競歩	女	決勝
9:50	走高跳	男	予選A、B
10:20	5000m	男	予選
11:10	7種競技 やり投	女	A
11:25	三段跳	女	予選A、B
12:25	7種競技 やり投	女	B
18:45	20km競歩	女	表彰式
18:50	ハンマー投	男	表彰式
19:00	円盤投	男	決勝
19:05	400mH	女	準決勝
19:25	棒高跳	男	表彰式
19:35	棒高跳	女	決勝
19:40	400mH	男	準決勝
20:00	110mH	男	表彰式
20:10	7種競技 800m	女	決勝
20:40	1500m	女	準決勝
21:00	100m	女	表彰式
21:10	800m	男	決勝
21:25	3000mSC	女	決勝
21:38	7種競技	女	表彰式
21:50	400m	男	決勝
21:52	円盤投	男	表彰式
8月14日(水) 大会5日目			
8:30	50km競歩	男	決勝
9:30	ハンマー投	女	予選A
9:40	5000m	女	予選
10:25	走幅跳	男	予選A、B
10:35	1500m	男	予選
11:10	ハンマー投	女	予選B
8月15日(木) 大会6日目			
9:30	やり投	男	予選A
9:40	走高跳	女	予選A、B
9:55	800m	女	予選
10:20	砲丸投	男	予選A、B
10:55	200m	女	予選
11:00	やり投	男	予選B
18:50	800m	男	表彰式
19:00	走高跳	男	決勝
19:05	4×400mリレー	男	予選
19:31	棒高跳	女	表彰式
19:40	三段跳	女	決勝
19:45	200m	女	準決勝
20:05	3000mSC	女	表彰式
20:20	3000mSC	男	決勝
20:33	400m	男	表彰式
20:45	400mH	女	決勝
20:49	50km競歩	男	表彰式
21:00	400mH	男	決勝

時間	種目	性別	ラウンド
21:07	3000mSC	男	表彰式
21:20	1500m	女	決勝
8月16日(金) 大会7日目			
9:30	やり投	女	予選A
9:45	100mH	女	予選
10:00	三段跳	男	予選A、B
10:35	200m	男	予選
11:00	やり投	女	予選B
11:30	4×400mリレー	女	予選
18:45	1500m	女	表彰式
18:50	400mH	女	表彰式
19:00	ハンマー投	女	決勝
19:05	1500m	男	準決勝
19:21	三段跳	女	表彰式
19:30	走幅跳	男	決勝
19:40	200m	男	準決勝
20:00	走高跳	男	表彰式
20:10	砲丸投	男	決勝
20:15	800m	女	準決勝
20:35	400mH	男	表彰式
20:45	5000m	男	決勝
21:05	ハンマー投	女	表彰式
21:15	200m	女	決勝
21:30	4×400mリレー	男	決勝
8月17日(土) 大会8日目			
15:30	マラソン	男	決勝
18:00	走高跳	女	決勝
18:10	200m	女	表彰式
18:20	100mH	女	準決勝
18:35	やり投	男	決勝
18:40	4×400mリレー	男	表彰式
18:55	5000m	女	決勝
19:16	走幅跳	男	表彰式
19:30	100mH	女	決勝
19:35	砲丸投	男	表彰式
19:45	4×400mリレー	女	決勝
19:53	5000m	女	表彰式
20:05	200m	男	決勝
20:10	100mH	女	表彰式
8月18日(日) 大会9日目			
15:40	200m	男	表彰式
15:47	4×400mリレー	女	表彰式
16:00	やり投	女	決勝
16:15	4×100mリレー	女	予選
16:34	やり投	男	表彰式
16:45	三段跳	男	決勝
16:50	4×100mリレー	男	予選
17:12	走高跳	女	表彰式
17:25	1500m	男	決勝
17:35	マラソン	男	表彰式
17:50	800m	女	決勝
17:57	やり投	女	表彰式
18:10	4×100mリレー	女	決勝
18:15	1500m	男	表彰式
18:40	4×100mリレー	男	決勝
18:45	三段跳	男	表彰式
18:52	4×100mリレー	女	表彰式
19:00	4×100mリレー	男	表彰式
19:10	閉会式		



JAAF 一般財団法人北海道陸上競技協会

HOKKAIDO

〒064-0810 札幌市中央区南区10条西13丁目3-22
TEL : 011-520-7801 FAX : 011-520-7802
<http://hokkaido-rikkyo.jp/>

4月1日付けで「一般財団法人」への移行登記を完了し、下記、役員のもと新たなスタートを致しました。

会 長 岡部 壽一(再任)
副 会 長 杉野 陸夫(再任) 瀬尾 広志(再任) 渡邊 清(新任)
専務理事 橋本 秀樹(再任)

2013年シーズン幕開けとなる、ゴールデンランプリ東京と日本グランプリシリーズでは福島千里選手(北海道ハイテクAC)をはじめ北海道陸協所属の選手は、各々順調なスタートを切りました。

北海道内での主な競技会は、ホクレン・ディスタンスチャレンジ2013が、11回目の大会として日本陸連強化委員会のご協力をいただき、第1戦士別会場、第2戦深川会場、第3戦網走会場、第4戦北見会場と4会場で開催されます。南部忠平記念陸上は7月7日札幌山鏡競技場で開催致します。また、北海道マラソンはコースを一部変更して、昨年より1,000名増員の12,000名で、更にショートレースとして11.5kmの部3,000名を新設し、競技者と市民ランナーが共に道都札幌の中心部大通り公園を発着として8月25日開催されます。

普及育成事業として、全国小学生陸上競技交流大会の北海道予選大会では、男女3年生の部を設け、100mと800mのトラック競技を実施し、普及委員会では次年度の大会から更に1・2年生の低学年種目を増やすことを計画しています。日本陸連育成プロジェクトU-13は9月1日旭川市花咲スポーツ公園陸上競技場で、U-16は8月25日千歳市青葉公園陸上競技場で実施予定です。

JAAF 一般財団法人青森陸上競技協会

AOMORI

〒038-0021 青森市安田字近野234-7 青森陸上競技場気付
TEL : 017-736-8420 FAX : 017-736-8134
<http://www.jomon.ne.jp/arikkyo/>

8月にモスクワで開催される世界陸上マラソン日本代表選手として、本県出身の福士加代子選手(五所川原工業高校→ワコール)が選ばれました。関係者一同大変喜んでおります。本大会では大いに活躍していただきたく期待しております。

今年も昨年に続き大変寒い陸上競技大会の幕開けとなりました。5月3～5日に青森で行った春季大会も雨と風に最高気温が10度前後と寒さのため、好記録も出ないまま終了しました。今後の大会に好記録を期待しております。

今後の競技会について、6月23日全国小学生交流青森県選手選考会(青森市)、6月29日～30日通信陸上青森県大会(弘前市)、7月5日～7日国体県予選・東北選手権県予選会(むつ市)と、毎週のように競技会が予定されています。また、県大会の実施されない週末は地区大会が行われています。

協会も、法人化して二期目に入りますが、24年度は単年度での赤字決算はなくほっとしているところです。25年度予算編成にあたり日本陸連からの地域振興補助金が24年度より減額になったことは大変な痛手であります。

最後の評議員会を5月26日(青森市)に開催し、役員交代も2・3致しましたが会長以下青森県の陸上競技発展のため大いに努力をいたす所存です。(文責:理事長 安田 信昭)

JAAF 一般財団法人岩手陸上競技協会

IWATE

〒020-0822 盛岡市茶畑2丁目8-27
TEL : 019-621-8460 FAX : 019-656-9006
<http://long-distance.jp/iwate/>

4月21日(日)岩手の競技シーズンの最初の競技会として開催している盛岡市内一周継走大会を岩手県営陸上競技場を発着とする、中学(男・女)一般・高校(女)は3km、一般・高校(男)は6kmの周回コースで行いました。

大会は残念ながら天候には恵まれませんでしたが、全部で300チームを超す参加を得て、大会は成功裡に終了しました。東日本大震災から2年、選手の登録者も以前の数に回復してきたように感じます。この盛り上がりと活気を、3年後に迫った岩手国体への原動力となっていくことを祈念して、今年度の各競技会での選手の活躍を期待したいものです。

JAAF 一般財団法人宮城陸上競技協会

MIYAGI

〒981-0122 宮城郡利府町菅谷字館40-1 宮城県総合運動公園内
TEL : 022-767-2194 FAX : 022-767-2194
<http://www.miyaginnet.com/mrk/>

当協会は、4月1日より一般財団法人に登記が認められ一般財団法人宮城陸上競技協会となり新しい体制でスタートをいたしました。

トラックでは4月28～29日の2日間、改修が完了した宮城スタジアムにおいて春季の大会を開催しスタートをいたしました。

5月12日には仙台市との共催で仙台市内をコースとして走る第29回仙台国際ハーフマラソン大会を開催しました。ともに今夏の世界選手権モスクワ大会に出場する川内優輝選手(埼玉県庁)や、アテネ・オリンピック金メダリスト野口みずき選手(シスメックス)ら国内外の招待選手や市民らが、新緑の杜の都を疾走しました。

大会は昨年より1万人規模に刷新され、今回は昨年を上回る14,462人が参加を申込み、ハーフマラソンは10,177人、5kmが1,816人、2kmが358人が完走しました。有力選手らが出場する登録の部で、男子はケニアのメクボ・ジョブ・モグス選手(日清食品グループ)が1時間1分54秒で初優勝、日本人トップは小林光二選手(SUBARU)の4位で川内選手は1時間03分30秒で10位でした。

女子は野口選手が1時間10分36秒で5年ぶり3度目の優勝を果たし、世界選手権に向けて復調ぶりを印象づけました。

今後も競技会を多数計画しております。選手の為の競技運営に努めてまいります。(文責:理事長 殿内 信一)

陸協NEWS



JAAF
AKITA

秋田陸上競技協会

〒011-0911 秋田市飯島字飯島水尻454-3
TEL : 018-845-0099 FAX : 018-845-0099
<http://www.akita-riku.fiw-web.net/>

2013・14年度新体制について。
去る4月7日の秋田陸協代表委員会・理事会において役員改選が
あり、次のとおり新体制となりました。

会長：羽角 光一（再任）
副会長：北林 強（再任） 佐藤 隆（新任）
佐々木時夫（再任） 小柳 七郎（新任）
本館 久男（新任） 藤田 登（新任）
宮崎 梧（再任） 米澤 喜彦（再任）
理事長：鈴木 文男（再任）※事務局兼務
今後も、宜しく願います。

（文責：理事長／鈴木文男）

JAAF
FUKUSHIMA

福島陸上競技協会

〒960-8135 福島市腰浜町3-41
TEL : 024-524-3620 FAX : 024-534-0339
<http://gold.jaic.org/fukushima/>

震災・原発被害により、約2年3カ月になりますが、復旧、復興に
は遠い箇所もあり、何かと問題を抱えながら、県民がそれぞれが与え
られた環境の中で、前向きに進んでいます。

当陸協も例外ではなく、当初は屋外での小中高生の活動が制限され、
中高生の陸上競技部員の減少が見受けられましたが、少しずつ戻って
いる傾向にあります。そんな中で、来年6月に県営あづま陸上競技場
で開催が決定している、第98回日本陸上競技選手権大会に陸協関係
者のみならず、県民の皆様が注目してもらおうと、県当局・福島市と
共に活動を始めたところですが、選手の皆様により良い
環境で喜んで競技を行っていただけるように、様々な面で努力する覚
悟です。更に、本県での開催で、将来ある小中高生諸君にとっては大
変よい刺激になるものと確信しています。競技場は現在改修中であり
来年3月には工事が終了し、5月には、東日本実業団大会を幕開けに、
6月の日本選手権大会を成功裡に終了したいと考えます。

強化普及関係では、国体候補選手のほば月1回の合宿を行い更なる
向上を図っています。また、本県唯一といってもよい実業団の東邦銀
行チームを指導している、福島大学川本和久教授は、世界選手権に一
人でも多くの選手参加を目指して指導しています。更に小学生の陸上
教室の指導者の講師等と多忙すぎるほどの日程をこなしているスーパ
ー教授でもあります。三段跳日本記録保持者の山下訓史先生（県立橋
高校教）の長男航平選手（筑波大学1年）は、将来三段跳で父の持
つ日本記録を破ってもらいたいと思っています。

JAAF
YAMAGATA

一般財団法人山形陸上競技協会

〒994-0103 天童市大字川原字1445番地の2
TEL : 023-657-3070 FAX : 050-7561-0534
<http://jaaf-yamagata.jp>

平成24年3月に一般財団法人として動き出してから早2カ年度が経
過し、間もなく役員改選となります。公益法人会計にも無事移行し、
6月開催の評議員会へ決算報告をするばかりとなりました。

平成24年度の事業としては、日本陸連の協力により、スターター研
修会を開催し、イングリッシュ・コマンドでのスタートに対応する技
術の向上に努めました。また、日本陸上界のトップアスリートが「走る」
「跳ぶ」「投げる」楽しさを直接伝えてくれた「キッズアスリート・プ
ロジェクト夢の陸上キャラバン隊」が山形市立第七小学校を会場に開
催され、子どもたちが、一流のパフォーマンスを食いつける様に見て
いた様子は、印象的でした。

8月4日には、上市市の標高1,000mにあり、文部科学省からナショ
ナルトレーニングセンター・高地トレーニング強化拠点施設として指
定された蔵王坊平クロスカントリーコースで、第38回蔵王坊平クロス
カントリー大会と第8回蔵王坊平全国ジュニア駅伝競走大会兼第16回
山形県ジュニア駅伝競走大会を開催します。県内は元より、全国から
の参加をお待ちしております。

8月24日と25日には、第44回東北陸上競技選手権大会兼第98回日本
陸上競技選手権大会東北地区予選会を、天童市のNDソフトスタジア
ム山形で開催します。

（文責：常務理事 阪口 伸一）

JAAF
IBARAKI

茨城陸上競技協会

〒311-4151 水戸市姫子2-349-13 潮田茂方
TEL : 029-253-4661 FAX : 029-291-5362
<http://irk.bent.jp/>

年度改まった4月6日、今年度諸事業の口火を切り、総会を茨城陸
協役員勢ぞろいのなか開催した。新役員の承認をはじめ、24年度決算
報告や25年度予算案・事業計画等の協議を行い、滞りなくスムーズに
終了した。午後からは恒例となった審判講習会を既得者162名、新規
受講者88名の参加を得て開催した。1週間後の13日には、トラックシ
ーズンの幕開けを告げるリレー選手権兼第1回記録会を審判実技講習
会を兼ねて実施し、新規受講者88名をB級審判取得者として認定した。

5月に入り県高校総体が10日～13日までの4日間、北関東大会への
出場権をかけて開催した。昨年、女子やり投でインターハイ・国体・
日本ユースの3冠を達成した斉藤真理菜選手（土浦湖北高）が、今年
の更なる活躍を確約するかのような見事な投てきで53m50の県高校新
記録を樹立し、幸先の良いスタートを切る。男子ハンマー投と女子円
盤投にも大会新が誕生するなど、活況を呈する大会となった。高校生
憧れの舞台大分インターハイへの最後の関門となる、6月の北関東大
会での本県高校生の活躍を祈りたい。

18日～19日の両日には、東日本実業団陸上競技選手権大会を笠松競
技場で開催する。女子短距離の福島千里選手（北海道ハイテクAC）
をはじめ、長距離陣でも日本の多彩なトップランナーが集い、高いレ
ベルでの力と技の激突に会場が大いに沸いた。次代を担う小中高生た
ちも、憧れの選手のパフォーマンスを目の当たりにして、新たな刺激
を受けたものと思われる。トラックシーズンもいよいよ佳境に入るが、
本県選手の活躍を期待したい。

（文責：理事長 潮田 茂）

会長就任にあたって(会長 横川浩)	246
会長退任にあたって(名誉会長 河野洋平)	247
理事会報告	248
第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)	
マラソン・競歩日本代表選手メッセージ	251
2013年度日本グランプリシリーズ各ブロック報告 (強化委員会)	254
国際陸連(IAAF)カOUNシル会議報告 (国際委員長 田中克之)	257
国際陸連(IAAF)道路競走コミッション会議報告 (国際委員長 田中克之)	258
大会観戦ガイド	259
陸協NEWS	260
事務局からのお知らせ	262

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
 三宅 勝次 (陸連副会長)
 友永 義治 (陸連副会長)
 尾縣 貢 (陸連専務理事)
 原田 康弘 (陸連強化委員長)
 風間 明 (陸連事務局長)
 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫

◇時報編集担当

繁田 進
 石塚 浩
 木越 清信
 宮田 宏
 本田香代子
 森谷 真咲

事務局からのお知らせ

◆◇陸上競技ルールブック2013年度版
 陸上競技審判ハンドブック2013-2014年度版
 4月より全国の書店、ネット書店で販売開始しました。◆◇

陸上競技関係者や愛好家のための2013年度版のルールブック、審判員のための2013-2014年度版ハンドブックの発売を4月から開始しました。修正のあった国際及び日本国内陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック。競技規則を正しく把握して、審判技術の理解を深め円滑な競技会運営を実行するために審判員必携のハンドブック。お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからもご購入いただけます。
 お電話でのご注文の場合：025-780-1231 (ベースボール・マガジン社 受注センター)
 ホームページからご注文の場合：ベースボール・マガジン社のホームページ <http://bookcart.sportsclick.jp>

JAAF



日本陸連公式マスコット
 “アスリオン”



公 告

「陸連時報」は、公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願いいたします。公益財団法人 日本陸上競技連盟

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟事務局 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

ホームページ <http://www.jaaf.or.jp/>公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>